

■ふるさと探検（人と地域が輝く常盤協議会 文化・子ども部会）

1 【活動の趣旨】

「ふるさと探検」は地域の歴史や文化、自然などについて、子どもと大人がともに学ぶことによって、「ふるさと常盤」に対する誇りと愛着を深めることができるよに行うものである。

2 【特徴的な活動内容】

コロナ禍で中止の年もあったが、今年6回目の「ふるさと探検」は芦浦町内会、芦浦東町内会、ホープタウン芦浦町内会にお世話になり、10月22日（土）の午前中のみ実施。センターを出発し、日頃なかなか見ることができない芦浦観音寺に到着。住職の西川さんから観音寺は武将織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった天下人とかかわりをもっており、湖上交通を管理する舟奉行として活躍していたことを学んだ。

金乗寺では、住職の遠藤さんから金乗寺は観音寺や印岐志呂神社とも関連が深いお寺でとのお話を聞いた。



【 芦浦観音寺 】

3 【実施に当たっての工夫】

読書グループ松葉会による芦浦観音寺にまつわる紙芝居を興味深く聞いた。例年であれば、常盤は俳諧の祖、山崎宗鑑の生誕地であることから、ふるさと探検の感想を5・7・5の俳句で参加者全員が作成しているが、今年は省略した。



【金乗寺でのお話】

4 【事業の成果】

「ふるさと探検」は、常盤に長いこと住んでいても、知らなかったり、気づかなかったことを、毎年違う町内を回っていることで、改めて発見する機会となっている。

今回も、参加された大人の方には、一度も入ったことがないという人もいた。

子どもも大人も「ふるさと探検」事業を通じて自然や先人の築いた歴史・文化を大切にする気持ちを持つきっかけとなってほしい。



【松葉会による紙芝居】

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

子どもと大人がともに学びあう「ふるさと探検」であるが、歴史や文化の話は低学年にはまだ難しく、また、高学年はクラブや塾等がありなかなか参加できない状況となっているのが現状である。たくさんの方に参加して頂くためにはどんな内容すれば興味が沸くのかといった、探検の題材や募集の方法など、課題が付きにくい。